

COVID-19 Infection Among US Dialysis Patients: Risk Factors and Outcomes From a National Dialysis Provider

Caroline M. Hsu, Daniel E. Weiner, Gideon Aweh, Dana C. Miskulin, Harold J. Manley, Carol Stewart, Vlad Ladik, John Hosford, Edward C. Lacson, Douglas S. Johnson, and Eduardo Lacson Jr.

Am J Kidney Dis. 2021 Jan 16. Online ahead of print

全文 URL : [https://www.ajkd.org/article/S0272-6386\(21\)00025-1/fulltext?dgcid=raven_jbs_aip_email](https://www.ajkd.org/article/S0272-6386(21)00025-1/fulltext?dgcid=raven_jbs_aip_email)

米国透析患者における COVID-19 の危険因子と予後

透析患者は高齢者や基礎疾患を有する患者が多いことから、一般住民に比べ SARS-CoV-2 感染リスクが高いとされているが、同患者集団における COVID-19 の危険因子や予後に関するデータは未だ限られている。著者らは、2020 年 2 月～6 月の間に SARS-CoV-2 感染の陽性者が少なくとも 1 例認められた米国透析施設に通院する維持透析患者 7,948 例を対象に、SARS-CoV-2 感染（PCR 検査により診断）および SARS-CoV-2 感染後の総死亡に関する危険因子をそれぞれ検討した。その結果、全体の 5.5%に当たる 438 例で SARS-CoV-2 感染と診断され、男性（OR 1.35 [95% CI, 1.09-1.68]）、黒人（1.95 [1.51-2.50]）、施設透析（1.96 [1.22-3.23]）、都市部の透析クリニックでの治療（2.30 [1.50-3.52]）、密集した居住環境*（17.1 [13.5-21.5]）、そして糖尿病（1.36 [1.06-1.75]）および動脈硬化性心疾患（1.42 [1.04-1.94]）の合併が、それぞれ SARS-CoV-2 感染に関連する独立した危険因子であることが示された。このうち、密集した環境下*で生活する透析患者は、そうでない患者に比べ、SARS-CoV-2 感染のリスクが 17.1 倍高いことも明らかとなった。一方、SARS-CoV-2 に感染した 438 例のうち、24.9%に当たる 109 例がその後に死亡し（診断から死亡までの平均期間：16.7 日）、高齢であることに加え、心疾患およびフレイルの指標（末梢血管疾患の合併や車椅子の使用、等）を有することが、それぞれ SARS-CoV-2 感染後の死亡に関連する独立した危険因子であった。

*老人ホーム、専門的看護施設、リハビリ施設、など

要約作成者のコメント：

本研究結果で注目すべきは、約 25%にものぼる SARS-CoV-2 感染後の死亡率の高さであろう。高齢化が進み、フレイルをはじめとした様々な併存疾患を有するわが国の透析患者背景に加え、国内における昨今の COVID-19 拡大状況を考慮すると、本研究結果は COVID-19 禍での透析医療に対する警鐘となるのみならず、透析患者における COVID-19 への予防（ワクチン接種の優先順位など）や治療策を検討する上でも参考となるデータと考えられる。

要約作成者：テネシー大学ヘルスサイエンスセンター腎臓内科 住田 圭一